

第3期 堺市北区政策会議 第4回 会議録

日 時：令和8年6月25日（木）10時から11時30分まで

場 所：堺市北区役所3階302会議室

出席者：

【構成員】（敬称略）伊藤嘉余子、今野裕光、加我宏之、坂江祥衣、中田萌々果、中村誠、
野田誠子、紅谷昇平、水野雅司（以上9名出席）

【事務局】鈴木敏文（区長）、原田明美（副区長）、辻本多美子（北保健福祉総合センター所
長）、花田智夫（新金岡地区活性化推進室長）、曾根勝（自治推進課長）、増川哲
（自治推進課課長補佐）、村田茂紀（子育て支援課長）、谷口真一（子育て支援課課
長補佐）、竹内香奈子（子育て支援課相談支援係長）、藤井裕子（北保健センター所
長）、池田舞（北保健センター健康推進第二係長）、寺田健一（市民課長）、水野正
徳（保険年金課長）、村田博史（生活援護課長）、至田義朋（地域福祉課長）、濱田
健右（堺市社会福祉協議会北区事務所長）、橋本直樹（堺市社会福祉協議会北区事
務所地域活動推進係長）、本池茂（企画総務課長）、光斎かおり（企画総務課総括参
事役 区政推進・人材育成担当）、辻林伸浩（企画総務課課長補佐）、鳴海祐哉（企
画総務課企画係長）、井上梨央（企画総務課）

会 議：公開会議

傍 聴：傍聴者数3人

1 開会

2 区長あいさつ

○鈴木区長 皆様、おはようございます。北区長の鈴木でございます。

本日は、多用の中、また、足元の悪い中、北区政策会議に出席いただきまして、誠にありがとうございます。

この政策会議でございますが、北区における施策等について、構成員の皆様から幅広く意見を頂戴しま
して、今後の区政運営に生かしていくための大変重要な会議でございます。

本日は、今年度、最初の会議でもあります。皆様のお力をお借りしながらより良い区政の推進に向けた議
論を深めてまいりたいと考えております。

さて昨年度、本会議におきまして、北区の新たな指針である北区「はっぴー・すまいる」ビジョンにつきまして、
皆様から多数のご意見をいただき、誠にありがとうございました。皆様のご意見に関しましては、フルに活用し
ましてビジョンに反映させていただいております。

今年度から、このビジョンに基づく具体的な取組がいよいよスタートしております。本ビジョンでは、これまでの
安全・安心、子育て、魅力に加えまして、健康増進を基本方針として位置づけ、将来像である「『たのし

い』でつながる北区」をめざしてまいります。

本日の議題である令和8年度の取組につきましては、将来像の実現に向けた重要な内容となっております。ぜひ、皆様のそれぞれのお立場から忌憚のないご意見、ご提案を頂戴していただければ幸いに思います。

限られた時間ではございますけれども、活発で実りのある議論となりますこと期待を申し上げ、簡単ではありますが、開会の御挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

3 会議報告

「事務局から配布資料の確認、会議の公開についての説明、傍聴人数の報告」

4 議事

○加我座長 それでは、第3期第4回目の北区政策会議を進めてまいります。案件の1つ目、令和8年度の取組について、事務局より説明をお願いいたします。

○事務局（鳴海企画係長） 主な取組内容の説明の前に、資料1の「令和8年度政策会議スケジュール」についてご説明させていただきます。資料1をご参照ください。

今年度の政策会議は全3回を予定しており、今回の会議では令和8年度の取組についてご意見をいただき、次回の会議で取組の進捗状況、最後の会議では取組の振り返りについてご意見をいただく予定です。

次に、資料2「令和8年度の主な取組一覧」を御参照ください。

この資料はビジョンに基づく取組を基本方針ごとにまとめた一覧表になります。新規の取組には二重丸を、改善を図った取組には丸をつけています。今回は新規改善の取組をピックアップし説明いたしますが、こちらの一覧の取組につきましても、何かお気づきの点などがあれば、幅広くご意見をいただければと考えております。

それでは、資料3「主な取組内容について」説明させていただきます。

なお案件の説明は、まず、「安全・安心」と「子育て」の取組について説明し、ご意見をいただいた後に、「魅力」と「健康増進」の説明に移らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、基本方針1「チームでまもる地域の安全・安心の『わ』」に関する取組について説明いたします。

○事務局（増川自治推進課課長補佐） 「安全・安心」の新たな取組を考えておりますので、ご説明いたします。

防犯に関する取組についてですが、これまで警察署と連携した防犯啓発や全市で実施する防犯灯や防犯カメラの取組などを実施しているところですが、北区民意識調査では、資料の右上のチャートをご覧ください。

令和元年度に続き、令和6年度においても「防犯に関する取組の充実」は、満足度が平均以下にもかかわらず、課題意識が平均以上となっており、北区の優先的改善項目であると認識しております。これを踏まえ、安全で安心な暮らしを実感していただけるような取組を強化するため、北区「はっぴー・すまいる」ビジョンに沿った区民協働の取組を新たに3点検討しております。

最初が、地域ぐるみで防犯意識の啓発です。1枚目資料右下にイメージをお示ししておりますが、北区にお住まいの方どなたでも、協力意向があれば簡単にご参加いただけるものとして、防犯ステッカーの各自宅

での掲示を考えております。

また、自治会の掲示板などにも掲示協力をお願いしたいと思っており、こちらには自治会名も示すことにより、安全・安心で暮らしやすい地域をつくる自治会活動のPRにも寄与するものと考えております。協力していただく方が増えるにつれ、「自分たちの地域は自分たちで守る」という連帯意識が醸成され、安全・安心の取組の『わ』が広がることを期待しております。

また、警察庁のホームページでは「犯罪者が最も嫌がるのは、地域の連帯感と信頼感で、住民同士の結束が大きな防犯効果を生み出す」と発信されており、それをはっきりと見える形で示すこの取組は、犯罪者が敬遠する環境への整備に一定の効果があるものと考えております。また、住民が一丸となって防犯対策に取り組んでいることをお住まいの地域で実感していただくことにより、暮らしの安心感につなげたいと考えております。

続きまして、区民協働で取り組む「防犯パトロール活動」です。

日常生活の中で無理なく取り組んでいただきやすい「ながら防犯パトロール」が全国的に広がっております。犯罪者に「見られている」「通報されるかもしれない」という警戒心を抱かせるには、北区内で日常的に活動等されている方に巡回していただくことで、防犯効果をより高められると考えており、北区内をくまなく巡回する車両を持つ事業者様や、置き引き被害の多い公園内を中心に活動される団体にご協力を仰ぎたいと考えております。

先方への打診をさせていただいていない段階ではありますが、具体的には荷物配達車両などにパトロール看板を貼り付けてもらい、大泉緑地や金岡公園などで活動されているウォーキングやランニングの団体に啓発メッセージが掲載されたビズやTシャツなどの着用にご協力いただきたいと考えております。

最後に、「自転車の安全利用啓発」についての取組です。

堺には鉄加工技術が古墳造営道具から鉄砲、包丁を経て自転車産業に受け継がれてきた歴史がありまして、日本唯一の自転車博物館やシェアサイクル事業、大和川リバーサイドサイクルラインの整備、ツアー・オブ・ジャパン堺ステージなど自転車にまつわる様々な取組が実施されており「サイクルシティ堺」のブランドを掲げて発信しております。

また、北区には平坦な道が多く、移動には自転車が便利で多くの方が利用されております。自転車を活用した取組は魅力発信や健康増進にもつながり、北区民意識調査では交通の利便性が北区の魅力として挙がっていることなどからも、これまでの北区政策会議において自転車の安全利用啓発を推進するべきとのご意見もいただいているところです。

令和8年4月からは、自転車への交通反則通告制度、いわゆる青切符制度が適用され、自転車の安全利用について多くの方の関心が高まっているところです。そこで自転車を利用する人も、道路で自転車と一緒に歩行者も、北区でお住まいの方が事故なく快適に移動できるよう、自転車の安全利用の啓発を強化したいと考えております。

これまでも北堺警察署や市のサイクルシティ推進部と連携し取り組んできました啓発については、北区役所エントランスホールでのパネル展を随時開催するほか、北区子育て支援課が実施する子育てイベントなど

においても、お子さんと一緒に同乗する際の注意点をお伝えするなど、北区内の所属とも連携を図り、様々な機会を捉えて積極的に啓発を拡充したいと考えております。

また、ビジョンに沿った取組として、新たにSNSなどウェブ上で安全利用を呼びかけあう啓発コンテンツを区民の皆さんと制作したいと考えております。コンテンツはホームページで安全利用に有益な情報と一緒に発信するほか、ホームページのQRコードを掲載した啓発チラシを、ひたくり防止カバー配布の際などに一緒にお渡ししようと考えております。

また、SNSでの拡散など、その普及にも区民協働で取り組んでいただきたいと考えており、自転車通学が多く、SNSの利用率も高く、バズる動画の制作に長けていそうな学生さんと協働して制作できればと考えております。

以上が、チームでまもる地域の安全・安心の『わ』に関する新たな取組3点となります。

○事務局（村田子育て支援課長） ビジョンの基本方針2「笑顔あふれる子育ての『わ』」に関する取組についてご説明いたします。

まず、「子育て家庭の孤立予防と地域交流の促進」についてご説明いたします。

転入者や子育てを始めたばかりの保護者は、地域の情報や相談先が分からず、孤立しやすい傾向がございます。また、同じ立場の保護者と出会う機会も限られておるため、不安や負担を抱えやすいこともございます。さらに、行政機関に対して「相談しにくい」「敷居が高い」と感じられる心理的なハードルがあるといったお声もお聞きます。このため子育てひろばや各種イベントなどへの参加者へ偏りが出ないように工夫が必要と感じております。

北区の子育て支援課では、これまでホームページや広報紙など、様々な媒体や事業を通じまして、子育て支援の情報発信を行ってまいりましたが、情報を必要とする方に十分に届いているとは言えず、保護者同士の交流機会も限られております。

そこで、今年度は区役所での交流機会の提供や地域の子育てひろばへの巡回に加えまして、民間事業者と連携した交流機会の提供を行いたいと考えております。現在、これについては調整しているところでございます。

幅広い子育て世代の交流の場へ新規の参加を狙いまして、子育て家庭の孤立の予防につなげていきたいと考えております。

次に、「パパがつながる父親向け子育て支援」についてご説明いたします。

北区子育て支援課では、特に父親の育児参画を進めるため、未就学児とその父親、それから、またこれから父親になる方を対象に、父親向け事業を展開しております。お父さんは地域でのつながりが比較的少なく、育児に関する情報や相談の機会にも限られがちなことから、育児への参画が進みにくい状況にあります。また、事業の実施に関しましても、参加への心理的ハードルが高く、結果として参加者が偏る傾向であることも課題であると認識しております。

これまで、多くの父親が参加しやすいように、事業の開催日を土曜日に設定してまいりました。また、地域で暮らすお父さんから「父親が集まる交流会をしたい」との声を受けまして、現に子育てをしているリーダー役

のお父さんと一緒になりまして、父親とお子さんが参加する交流会を実施してきました。

そのほかにも写真撮影や制作活動など、参加しやすいプログラムを取り入れまして、親子の触れ合いの機会を創出し、父親同士の継続的なつながりが生まれるように工夫を行ってきました。

さらに、今年度は、区役所での実施に加えまして、この8月でございますけども、堺市産業振興センターで開催予定の民間事業者が行うイベントにおきまして、父親同士の交流機会の提供を現在調整しているところでございます。これによりまして、交流会の参加者の拡大を図りまして、父親同士のつながりの『わ』を広げることに寄与すると考えております。

事務局からの説明は以上です。

○加我座長 ありがとうございます。

令和8年度の主な取組について、まずは、安全・安心と子育ての取組について、新規に今年度取り組んだもの、また、改善したものを中心にご説明いただきました。

その他の項目については、資料2をご確認いただきながら、ご意見を受けたいと思います。どこからでも構いませんので、ご意見いかがでしょうか。

○野田構成員 防犯のことで質問です。ひたくり防止カバーは、これまで配布をされているということですけども、私が見かけるのは堺という文字が入っていたり、何か古墳のような、地域の模様の入ったものをよく見ます。今回ビブスなどを配布して、地域の方に着用を依頼する、車両に防犯の警戒中というのをつけていただくというのもすごくいいことだと思うのですが、せっかく、ひたくり防止カバーを配るのであれば、防止カバーのほうに地域の見守り活動中、防犯警戒中のような文字の入ったものを配布すると、地域の方がふだん使いながら、でも、ちょっと見守りもしているような感じになるので、ぜひとも、そのひたくり防止カバーのデザインも何か考慮いただければなと思いました。

○加我座長 ひたくり防止カバーのデザインは、今、どんな状況でしょうか。

○事務局（曽根自治推進課長） ひたくり防止カバーにつきましては、これは防犯協議会からいただいているものになりまして、堺市でデザインしていた、作成していたときもありますが、今は提供を受けたものを区民の皆様にお渡ししているということになります。なので、今回いただきましたご意見につきましては、一度、警察とも共有させていただきたいと思います。

○加我座長 車両に、荷物を運んでいる車両等に加えて、自転車の方々ということも取組としてご検討いただければと思います。続いていかがでしょうか。

○伊藤構成員 私は2つ目の「笑顔あふれる子育ての『わ』」のところで、こちらの資料2を見ましても、先ほどのご説明を聞いても、すぐ乳幼児を育てるご家庭、保護者の方への様々な取組など、アプローチがすごく充実してきていいなと思ったのですが、その一方で子育て家庭って乳幼児だけではないので、小学生を育てる家庭など、小学生以上中高生も含めて、そういった小学生以上の年齢のお子さんを育てている家庭、また、その小学生、中高生のための取組について、こういうところを工夫しているなど、拡充しているものがあれば教えてもらえたらと思います。

○事務局（村田子育て支援課長） 中高生のところまではまだはっきりこうというのはないのですが、小学

生に関しまして、夏休みの期間に体験型の取組を行いまして、小学生自身が自ら考えて自分で決定できるという事業を行っているところでございます。今年度も、現在それを実施していく方向で調整しておりまして、そのようなところの力を入れているところでございます。

○伊藤構成員 これは感想、意見のようなコメントとして受け止めてもらえたらと思うのですが、やはりその子育てのスタートダッシュ、親にとってもですが、スタートダッシュとして国も最初の100か月ビジョン、育ちビジョンなどを出しているので、乳幼児の子育て支援はとても大事だと思います。一方、中学生、高校生は、いわゆる若者世代で、今後大人になっていく世代なので、その子たちが北区のいろんな取組であったり、北区でこういう支援を受けたみたいな実感を持って北区で高校生、大学生になって、20代、30代になってという、何かこどもから大人になっていく、その接続期、後期にあたる若者支援ということも、きっとこれから大事になるのかなと思っています。ほかの自治体だと高校生に、今、この会議体は大学生の人に当事者委員として入ってもらっていますが、高校生の枠を決めたりするなど、高校生の声を聞いて施策に反映させていくということをしている自治体もあったりするので、令和8年度はこれでもいいということでもいいんですけど、今後の中長期的なビジョンとして中高生へのアプローチをどうしていくかということもぜひ検討していただけたらうれしいです。

○加我座長 ありがとうございます。

中高生は支援の対象でもあります。場合によっては地域の担い手の対象でもあろうかと思いますが、支援としてということで、学校との連携ということがあろうかと思いますが、私、今まで聞いていたのが、地域で高める地域防災力のところでも、中学校の避難所ワークショップということで、各中学校の生徒、逃げ方と、そのときに、有事が発生したときの、彼らの力の発揮の仕方みたいなこともやっていたと聞いております。一番場合によっては地域と離れるのが中学生や高校生、大学生が一番かもしれませんけれども、その辺の若者支援ということご検討いただければと思います。

続いて、ございませんでしょうか。

○坂江構成員 まず、自転車の安全利用啓発についてなのですが、子育て世帯が多い地域というのは、言い換えればこどもを乗せた電動自転車がたくさん走っている地域でもあるということで、この安全利用の啓発活動には、ぜひ力を入れていただけたらと思います。

道路交通法が変わって、自転車利用者へのヘルメットの着用というのが努力義務化されているわけなのですが、依然としてあまり大人の着用率は高くないというのが現状ですよね。ただ、興味深いことに幼稚園、保育園などの送り迎えを見ていると、こどもにはちゃんとかぶせているという保護者の方がすごく多いんですね。なので、こどもは既に結構ヘルメットをかぶっているという状況があるのだから、次、親子でおそろいにする、自転車のヘルメット、パパも僕もおそろいだね、みたいな、そのような方向で進めることで、最近大人もかぶるのが当たり前なんやなみたいな雰囲気をつくっていくことができるのではないかなと思いました。

例えば、交通安全ルールという方向の啓発ではなく、子育て支援の文脈に寄せて、ヘルメットをかぶったほうがこんなに安全ですよって言って、それからこどもがヘルメットを嫌がらなくなる方法みたいな、育児のお助け情報として発信していくのもいいのではないかなと思いました。実際にこどもに危ないからヘルメットかぶりなさい

いと言っても、いや、そんなこと言っても、お父さんも、お母さんもかぶってないということになるんです。こどもにとって押しつけられた義務、自由の制限みたいなものを感じられて、心理的に反発を生んでしまう、こどもだけにかぶせて大人がかぶらないまましていると、こどもたちに大人になったらかぶらなくていいのかなという誤った認識を与えてしまう可能性もありますし、親子一緒でのような方向を打ち出していくのはどうかと思いました。

こどもって基本的に親のまねをするのが好きなので、大好きなパパ、ママが自転車でお出かけやからヘルメットかぶろうねって楽しそうに着用していたら、こどもも命令されたからではなく、自分も同じことをしたいなという気持ちでかぶってくれ、そういう方向にできたらいいと思います。交通安全って言われると聞き流してしまう人でも、育児の効率化情報ですよと言われてたらずっと受け入れやすいといったこともあるのではないかなと思いました。

いずれにせよ、誰もが安全に自転車で走りやすい地域というのは、区としてもすごく大きなアピールポイントになると思うので、ぜひ進めていただきたいなと思いました。

それから、子育て家庭の孤立予防の話なのですが、最近、ご近所に同じような年齢の子育て世帯が住んでいるにもかかわらず、全然交流がないというご家庭も多いようです。その一方で、保護者の皆さんから小学校では行事や持ち物に関しての詳しい説明が省かれることがあって、保護者同士で何となく教えあうことが前提になっているような空気を感じることがあると、あと、こどもの登下校の安全などを考えても、近所に友達がいたほうがいいんじゃないか、どうにかして近所の保護者と知り合いになっておいたほうがいいんじゃないかなという、そういう声が聞こえます。つまり、ママ友、パパ友いたらいいなという、そういうふんわりした希望ではなくて、情報を共有できる相手がいないと本当にこどもが困るんじゃないかという、ちょっと切羽詰まった感じで思っている方がいらっしゃるんです。地域交流の促進というのは、このような不安の解消に直結し、あと、防災の観点から見たときも、いざというときに近所で助け合える人がいるというのは、すごく大きな助けになると思います。

あとは、子育てサークルを日頃運営している中でも、最近は少しパパの姿が増えてきているように思います。私の子育てサークルは火曜日にやっているんですけども、皆さん、こういうの土日はやってないんですか、やっているのであればぜひ行きたいのにということをおっしゃっているの、パパ向けのイベント支援というのぜひ進めていただきたいなと思っています。

現在、区の子育ての政策はいろいろ充実していると感じているので、やはり先ほどおっしゃっていたように、あるのが必要な人に届いていないという問題が実は一番大きいのではないかなと思いました。子育て中の方の状況は様々なんですけれども、中には行政自体に対して何か根本的に不信感、怖さ、不安みたいなものを抱えている方もいらっしゃる。例えば保健師さんが赤ちゃんの様子を見に来てくれる、そういう事業がありますけれども、これは本当に親子のための有益なサポートなんですけど、不安がある人にとっては、何か怖い人が私の育児を審査しに来るみたいな、テストされる、点数つけられて不合格やったら赤ちゃん連れていかれるんだろうとか、そういうすごく守るためのサポートが完全にマイナスの方向に捉えられているとか、そういうこともあるんですね。そのような根本的な不安がある方にとっては、幾ら困ったらこんなサポートがありますよ。そんなのありますよという正しい情報、広報で正しく発信してもなかなか心に届かないと思います。

そういった観点から見ると、今やられている子育てフェスタというのにすごく大きな意味があると思います。まず、あれは自分が普段行くような商業施設に行政のほうから来てくれたという点が、まず一点大きいです。不安がある人にとって、区役所という場所はあまりにもアウェーになってしまっているという状況があって、自分の知っている場所に来てくれるということで、ハードルがぐっと下がると思います。何より子育てフェスタには職員さんとの、人と人との生の接触というのがある。それで区のサービスというもののハードルがぐっと下がると思うんです。区役所の人が福引きの景品をにっこり笑って渡してくれ、本当にそんなささいなことでもいいんですけども、「私たちはあなたの子育てを審査しません。あなたたちの味方です私たちは」という、そういう雰囲気伝われば、それだけで十分だと思います。あと、行政というものに何となく怖くて不安な、巨大なシステムのイメージを持っている人にとって、それを壊してくれるのは、あの時、あの人になっこり笑ってくれたな、あの人が優しくなったという非常に個人的、かつ、感情的な体験になるんじゃないかと思います。いつか本当に困ったときに、そう言えばあの時の人が優しくなったということを薄っすら思い出してもらえろという、そういう記憶が信頼というものにつながって、そこで初めて機能するサポートというのがあると思います。

ということで、子育てフェスタ、ぜひ今後も続けていただきたいと思います。ありがとうございます。

○加我座長 ありがとうございます。区役所のほうでいかがでしょうか。

○事務局（村田子育て支援課長） 数々のご意見ありがとうございます。

子育て支援課のほうでもパパ向けの事業、日頃から力を入れております。先ほど申し上げた土曜日開催もそうですし、情報提供の部分においても、父親の子育ての参画を促すようなパンフレット類も北区で作成しております、そういった交流機会の場においてお渡しして、より一層、実際に母親だけではなく育児参画が進むように、情報提供をしているところでございます。

おっしゃっていただいたように、行政への不信感を抱く、ハードルがあるといった、この辺も十分に課題として認識しておりまして、その区役所の中で行う、区役所の広場もございますけれども、その地域にあります子育て広場のほうにも出向いて行って、そういったところをご利用されている方への情報発信であるとか、あるいは今後、民間の商業施設、民間の事業者とつながって、そういった場で子育て支援情報を提供していくということにも力を入れていきたいと考えております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○加我座長 ありがとうございます。自転車のヘルメットの件はいかがでしょう。

○事務局（曽根自治推進課長） 自転車のヘルメットにつきましては、ご指摘のとおり、交通安全によった視点のほうが大きいのかなというところ、子育てに絡めてという視点、非常に大切な視点を学ばせていただいたと思っております。自転車の施策につきましては、本庁の自転車企画推進課のほうでやっていますが、そことの共有をさせていただいて、その視点も踏まえながら区役所の関係部局と連携しながら、啓発に取り組んでいきたいと思っておりますので、ご意見ありがとうございました。

○加我座長 ありがとうございます。

堺市はヘルメットの着用、義務、協力をいち早く条例でつくった先進的なところでございます。と言いながら、これ少し私も耳が痛くて、私でいいですと、こないだ学生がかぶっているのに、私はかぶっていないみたいなこともよくありますので、学生から叱られるといいますが、これをかぶってくださいと指摘していただいたこともありなが

ら、結局そのままではあったらかしになっているので、ちょっと反省をしながら、安全に暮らしていきたいなと思っています。改めて感じたところでございます。ほかございますでしょうか。

- 中村構成員 パパ代表で言っておきたいと思いました。この「パパがつながる父親向け子育て支援」ということで、私も3兄弟の父親でありまして、今、上は大学2年、高校2年、中3と大きくなりましたけれども、10年くらい前までは保育園の送迎をしていました。

やはりそのときに、最初はやはり送迎に行くのもなかなかちょっと恥ずかしい気持ちがすごくありましたが、2人目の出産と連れていけないといけない、進級式、そのタイミングが重なって、どうしても自分が行かないといけなくなったときに、自分としては勇気を出してというか、行くしかない状態に追い込まれて行ってみたら、お父さんも来られている方がたくさんいて、その中で交流というか、パパ友というのですか、そういうのができたりしています。今もつながっています。

先ほどおっしゃっていた、年に数回父親が参加できるイベントということではあるんですけども、年に例えば2回、3回というのが行われる中で、例えば6月の、私が一番思っているのは先日父の日がありました。しかしながら、母の日ほどの扱いではないのかなと思います。父の日をうまく使って、親子をその日はパパの日、父の日はパパの交流の日です、のような、6月の第3日曜日はパパの子育ての日ですよ、みたいなことをある程度つくってもらってもいいと思います。頻繁ではなくても、年に3回、そういう第3日曜日は、そういう交流会ですみたいなのをつくっていただいて、先ほど言っていた保育園、幼稚園などにも、そういうところを広めていただければ、保育園同士のパパ友が、こんなのがあろうか一緒にいこうかみたいになるかもしれません。とりあえず、そういうつながりのところから、なかなか一家庭だけで行くというのはハードルが高いかもしれないです。知らない方同士というのは、そういうつながりをもとに徐々に広がっていけば、そういうのがあつたらちょっと参加してみようかなというように気軽に行けるのではないかなと思いました。私もこういうのがもっとあつたら、ぜひ参加したかったなと思います。

- 加我座長 ありがとうございます。

応援の言葉をいただいたかと、父の日もちまたでよく見たような気がします、母の日のほうが。

- 中村構成員 私のところは全くなかったの。

- 加我座長 ありがとうございます。紅谷構成員、いかがでしょうか。

- 紅谷構成員 ビジョンに沿って新たな施策やいろいろな施策の改善が図られていて、ぜひこういう形で続けていけるといいんじゃないかなと思いました。

細かい点にはなるんですけども、防犯に関しては、防犯パトロールです。これはよく犬の散歩の人に何かつけてもらうなど、全国でもいろいろ取り組まれていると思いますので、そういう先進事例なども参考にしながら、ぜひ北区にあった取組をやっていただきたい。企業さんの宅急便とかの車両にお願いする場合、企業さんって活動を別に区単位でやっているわけではないので、北区さんと、堺区さんと別々で話がいくと、多分企業さんすごく困られると思うので、施策によって市単位でやるのか、区単位で協定結ぶのかというのは、ほかの区さんや本庁とも相談しながらやられたほうが、企業さんは受け入れやすいのかなと思いました。

また、免許の返納やヘルメットの問題でいうと、大阪、神戸だと、最近LUUPが走っていて、大体ヘルメット

をかぶらずに歩道を20キロぐらいで、20も出ないかな、十何キロぐらいで走り、北区も駅から離れているところだと、そのような問題も出てきているのかなと思います。新しい交通手段に関してどうするのかというのは、今のビジョンにはなかったもので、もし問題があるようでしたら警察と相談の上、また、必要な啓発活動も取り組まれるといいのではないかと思います。

それから防犯に関して、街灯への防犯灯支援が今ありますけれども、全国的に防犯カメラへの支援というのも導入している自治体さんもあると思いますので、今後、そういうものもあってもいいのかなとは思いました。

それから、あと子育てのほうです。こちらは私も専門ではないんですけれども、父親向けの子育て支援というのも本当に大事だと言われていまして、必要だと思う一方で、こういうところにお父さんが出てこられる家庭というのは、ある意味大丈夫な家庭かなという気もいたします。シングルファーザーなど、本当に大変な、日々の生活で大変な方というのは、行政がどういう支援をやっているかということを調べるゆとりもないと思いますし、シングルファーザーのご家庭で、やはり母さん、ママ友とかもなくて、学校の情報もよく分からないとか、困っていらっしゃる方もいらっしゃると思いますので、支援が必要な世帯に対して求められている支援を的確に行うということも、いろいろな部署や保育所などの方からも、ニーズを聞きながら進めていただけるといいのではないかと思います。私からは以上です。

○加我座長 ありがとうございます。

市として、区として、単位としての連携、他部局との連携などについて、今お考えがあれば教えていただけますでしょうか。

○事務局（曽根自治推進課長） 防犯ですけども、北区の取組でもありますので、北区を中心とした企業さん、郵便局等含めまして、北区の中を回っていただける企業さんに相談、調整したいというのはあります。また、北区以外の堺市全域の企業さんもあるかと思いますが、そちらについては本庁と調整しながら進めたいと思います。

ご指摘いただいております防犯カメラの支援なんですけれども、これは実は自治会さんのほうがつける際に補助を出しております、支援については行っております。

また、自治会さんがつけておられました防犯カメラについては、公設化、令和8年、9年とかけまして、市のほうで管理するという事で公設化に向けての事業をしております、地域の防犯カメラの設置につきましては支援を行っているところです。

○紅谷構成員 ありがとうございます。よく分かりました。

○加我座長 では、ここの安全・安心も関わってくるかと思うので、次の「魅力」と「健康」についてご紹介いただいて、意見交換ができればと思いますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（本池企画総務課長） 基本方針3の「いろんなコラボレーションでつくる・つながる魅力の『わ』」に関する取組について説明させていただきます。

まず、「はっぴー・すまいる」フォトフェスタについてご説明いたします。

これまでもフォトコンテストを実施してきましたが、どうしても風景の応募が多い傾向にありました。また、応募方法をInstagramに限定していたことから、幅広い世代の参加を促すことが課題となっております。

今回実施しますフォトフェスタでは、3部門で写真を募集いたします。まず、フォトコンテストでは、新ビジョンに掲げる将来像、『『たのしい』でつながる』をテーマに、生活に密着した事柄や、人の活動に関する区の魅力を区内外へ広く発信する写真を募集いたします。

次に、昔の写真大募集では、過去に撮影された写真の募集を行い、懐かしさや地域のつながりを感じられる昔の風景や出来事を共有する機会としたいと考えております。

北区の魅力カレンダーでは、「これからも残していきたい北区の魅力×四季」をテーマとしたカレンダー用写真を募集し、四季折々の魅力を再発見・発信していきたいと考えております。

これらの写真はInstagramでの応募に加え、アナログ写真での応募も可能としています。応募いただいた写真は時系列で展示し、それぞれのエピソードとともに紹介したいと考えております。また、写真だけではなく、この写真とエピソードを関連づけた動画を作成して発信していきたいと考えております。

展示をイオンモール堺北花田ウエルカムコートや北区役所1階エントランスホールにて、令和9年1月から2月頃に開催する予定としております。これらの取組を通じて、幅広い年齢層の区民の方々が様々な活動に興味を持ち、参加したくなるきっかけづくりにつなげていきたいと考えております。また、展示や動画により、世代を超えて魅力を共有し、次の世代へとつないでいければと考えております。

次に、「区民活動支援コーナー交流会（うたごえ広場）の実施」についてご説明いたします。

北区には区役所の北側に新金岡市民センターというものがございまして、その2階に区民活動支援コーナーを設置しております。そこで区民活動の場を提供するということを実施しております。

この支援コーナーの活動団体である合唱や楽器演奏、文化系サークルなどが集い、舞台発表や作品展示を通じて各団体や区民の皆さんが交流し、区民活動の輪を広げることを目的として、交流会を毎年開催しています。

このイベントに合わせて、童謡や唱歌などを講師と一緒に歌う「うたごえ広場」も同時に開催しております。午前中に「うたごえ広場」を実施して、午後に活動の発表を実施するという形で、今年度は10月頃開催を予定しております。

ただ、この交流会ですけれども来場者、観覧者が少ない時間帯などがありまして、いかに多くの区民の方に来場していただくかということが課題でして、また、交流会に参加している参加団体同士の交流機会も不足していると感じております。

そこで、今年度より、この交流会活性化の一環として、展示しているサークルなどにご協力いただいて、絵手紙や折り紙などのプチ体験コーナーを新たに設けたいと考えています。

また、区役所で実施、区役所が企業等と協働して実施しているスマートフォンの使い方教室や北区の魅力発信講座、そういったところに参加される方に、こういった交流会というのがあるよということをお知らせして、より参加していただく方を増やしていきたいと考えております。

また、区役所内でもそれぞれの課がいろんな事業をやっておりますので、そこへ参加している方にもPRを積極的に行っていきたいと考えております。

加えて、今回から、この交流会に参加する団体さん自身にも司会の一部を担ってもらって、自分たちでつく

っているんだというような交流会にしていきたいと考えております。こうした取組で参加団体同士の交流を深め、少しでも多くの区民の皆さんに交流会に来場いただき、団体と区民の皆さんの交流促進をめざしたいと考えております。

以上でございます。

- 事務局（藤井北保健センター所長） 続きまして、基本方針4の「多様なコミュニティで呼びかけあう健康増進の『わ』」についてご説明させていただきます。

まず、区役所1階待合ロビーでの健康啓発や健康情報の提供に関する取組について御説明させていただきます。

北区の特定健診の受診率は、令和6年度時点の目標値が45%に対して、30.7%でした。受診率の向上が課題になっています。また、ご自身の体や健康に関しての関心が薄い方たちへのアプローチも必要となっています。

保健センターでは、日頃からライフコースに合わせた健康啓発や講座を実施していますが、保健センター中心の取組では、接点が限られてきていると感じています。より多くの区民の皆さんに健康増進に取り組んでいただくために、今後は他課との連携や保健センター以外の場所での取組も必要と考えております。

具体的には、区役所内では1階のフロアの保険年金課と市民課と連携し、9月3日と11月5日に待合ロビーに机1台程度のブースを設置させていただいて、健康情報の発信と健康相談を実施する予定です。国民健康保険、後期高齢者医療制度を所掌する保険年金課の来所者に直接案内できるメリットは大きいと考えております。

窓口対応の職員に対しては、案内用のチラシを来庁者に配布して参加を促してもらうよう依頼していきたいと思います。保健師2、3名で対応する予定です。来庁者へ個別にお声かけをさせていただいて、特定健康診査やがん検診受診の勧奨と具体的な受診方法の案内などをしていきたいと思います。また、健康情報の提供や必要な方には血压測定もご案内します。可能な範囲で簡単な運動も実施してもらうなど、ご自身の記憶に残るような働きかけもしていきたいと思っています。午前、午後と時間帯を変えて実施し、より多くの方にお声かけできるようにしたいと考えています。

続きまして、次ページになりますが、保健センター以外の場所へ出向いての「商業施設での健康啓発」についてご説明させていただきます。

今年度、初めての試みとして、先日6月19日にイオンモール堺北花田店の一角をお借りして健康啓発を実施してきました。当日は、スライドにあるような歯の磨き残しチェックなど、簡単にできる測定を行って、ご自身の体の状態に関心を持っていただけるよう工夫しました。また、保健センターの各専門職が来場者からの様々な相談に対応できる体制を整えました。さらに、「お買い物ついでに体点検会」と題した案内チラシを作成して、お買物に来られているお客さんに配布しました。

アンケートに協力を得られた方だけでも61名、それ以外の方も含めると、70名を超えると思われる方の参加がありました。アンケート結果から、約70%が60歳以下、うち20歳から40歳代の方が24%いらっしゃる事が分かりました。また、そのうち80%の方が保健センター事業への参加はされたことがなく、ほぼ全員が参

加により健康づくりに取り組みたい、また参加したいと回答されており、ふだん啓発が届いていない層への効果的な啓発を行うことができたと考えております。

これらの取組により、保健センター事業をご存じない方へのアプローチなど、新たな層への働きかけを強化し、特定健診受診率の向上にもつなげていきたいと考えております。

○事務局（本池企画総務課長） 次にページをめくっていただきまして、「はっぴーすまいるプロジェクト」についてご説明いたします。

昨年度制作いたしました北区オリジナルダンス楽曲「キタキタ☆スマイル」につきまして、今後、認知度をさらに向上させ、踊っていただく機会を創出し、区民に広げていきたいと考えております。

はみがきうさぎと堺市のキャラクターが踊る振り付け動画はユーチューブで公開中ですが、今年度は、区民の皆さんに実際に踊っていただくきっかけをつくるため、ダンス動画の募集を予定しております。募集期間は8月から11月までを予定しております。応募いただいた動画を基に、その動画をつなげて、つながるダンス動画を作成し発信してまいります。

さらに、昨年度楽曲を披露した交流まつりや子育てフェスタに加え、商業施設でのグリーティングの実施についても現在検討しております。この取組を通じて、区民のつながりの輪を広げ、北区の将来像「『たのしい』でつながる北区」の具現化をめざしたいと考えております。

次のページの「サイクリングを活用した健康増進イベント」についてご説明いたします。

区民が日常生活に無理なく気軽に取り組める健康増進の機会の創出が求められ、また、北区には公園や歴史資源といった魅力スポットがあるものの、魅力への関心をさらに高め、区民の皆様による発信につなげていくことが必要と考えております。

そこで新たな取組として、「サイクリング」を活用したイベントを、10月から11月頃に実施する予定となっております。実施にあたっては、自転車関連の市民団体や民間事業者と協働し、サイクリングコースの選定や安全な走行の支援を行ってまいります。

また、出発前には保健センターによる健康ストレッチやミニ健康講話を行い、運動の効果などについてご説明いたします。さらに、サイクリングコースの中に北区の魅力スポットである公園や古墳、神社などを組み込み、自転車にカメラをつけて走行し、その映像を活用して、自転車から見た北区の魅力を紹介する動画の制作も予定しております。

この取組により、健康への関心を持つきっかけをつくりながら、地域への関心や愛着を高めていきたいと考えております。

以上、事務局からの説明となります。

○加我座長 ありがとうございます。

先ほどの「安全・安心」、「子育て」に加えて、「魅力」と「健康増進」の取組、これら関連するところもあるかと思いますが、今年度の取組をご紹介いただいております。ご質問、ご意見等をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

○野田構成員 すみません、ちょっと話が戻ってしまいますが防犯の件です。ステッカーとかを貼る件なんですけ

ども、防災のときにポストにステッカーを貼っていただいていたと思うんですけど、同じように市内どこでもある自販機に貼ってはいかがかなと思うんですが、自動販売機ってどこでもありますし、自動販売機を見ていると、落書きがされているような自販機もあって、そういうのは割れ窓理論で、落書きを早く消さないと、その辺の、周辺の治安がごみ捨てられるとか、悪くなるきっかけにもなりますし、中百舌鳥駅の近くの自販機で、ちょっと嫌だなと思ったのが、闇バイトっぽいチラシみたいなシールが貼られていて、そのままになっていた自販機が一時期間あって、ちょっと嫌だなと思っていたんです。逆に、そういうふうな自販機に防犯に関するようなシールやステッカーが貼られていたら、そこにあるだけでも意識の向上といいますか、みんなに啓発するというのもにつながるかなと思っていて、以前テレビで見たのですが、防犯カメラを導入したいけど、費用がという方に向けて、自販機に防犯カメラをつけて、防犯カメラは、その自販機を置いてもらうことで無料ですという、自販機を置いてもらいたい業者さんからすると置いてもらえるということで、地域のほうも無料で防犯カメラを導入できるという、そういうことをされている会社があるというご紹介もあったので、自販機にそういった何か防犯のものを許可いただけてつけてもらうというのもいいかなと感じています。

あと、フォトフェスタです。以前はInstagramに限定で、世代が限られていたのですが、今回はアナログ写真もオーケーということで良くなったなと思います。幅広い年代の方から応募していただいて地域の魅力発信につながるいいなと思います。

次のページの「うたごえ広場」についてです。私、ここのイベントを全く知らなくて分からないんですけど、こういったイベントって結構高齢の方が中心になってしまって、告知とかもひっそりと掲示板に貼られている文字だけの写真がない、どうなのか分からないみたいなのが多いかなというイメージなんです。なので、告知のほうはできれば区役所でもお手伝いいただいて、こういうイベントがあるというのをもっと知っていただく。あと、先ほど時間帯によっては参加者というか、来場者の方が少ない時間があるということだったんですけど、例えばなんですけど、この「キタキタ☆スマイル」をみんなで踊る時間とかをつくってもいいかなと思います。もし近くの保育園、幼稚園などの子で「キタキタ☆スマイル」を練習してもらって、披露するような時間があれば、それもいいと思います。まだ、「キタキタ☆スマイル」の認知度とかもまだまだなので、それだったらここの「うたごえ広場」の一部、人が少ない時間に「キタキタ☆スマイル」のみんなでダンスしてみようというダンス体験というか、講座のような時間にしてもいいと思います。ステージに立つ人だけではなくて、体操とかでたまに椅子に座ったままでできる体操とかあると思うので、ご来場で見に来られただけという方も、その場で一緒にやりましょうみたいな、体を動かしましょうみたいな時間があるとお子さんも来やすくなると思います。ご高齢の方が多いのであれば、ちょっとした体を動かして、健康増進につながるような時間にもなるのかなと思います。

あとは健康啓発、がん検診のことなんですけど、がん検診って何歳のときに無料で、この検診受けますよという一覧みたいな紙をいただいたことはあるんですけど、忙しくて自分自身が該当の年齢なのかを常日頃からチェックしてなくて、忘れてしまって、何年も受けてないみたいなことになりがちです。費用的に難しいかもしれないですけど、やはり対象の年齢の人にお知らせが行くと一番ありがたいと思うのですが、それが難しくても、例えば過去5年間、そういった検診を受けてない人死んでに何かお知らせができるとか、そういった個別に知らせてもらえたらいいなと、費用が本当に難しいと思うんですけど、それは希望です。

あとサイクリングのことです。サイクリングのイベントも地域のことを知ってもらうことも含めてとてもいいことだと思います。私も、まだ自分は自転車いつも乗っているんですけどヘルメットしておりません。サイクリングの、このイベントに来てくださった方にお子さんはヘルメットしている子が多いかと思うんですけど、大人はヘルメット持っていないという人もいると思うんです。ヘルメットを幾つかイベントのときに貸出用みたいなものを準備いただけたらうれしいなと思います。親目線であれなんですけど、こどものヘルメットは危ないと思って買っているんですけど、5,000円とかして高いんです。すごく、自分のってなったときに蒸れて暑いだろうし、不愉快だろうし、しかも5,000円とかかかるのかと思うとすごく買うというのが、ハードルがすごく高くなっていて、ついつい、本当に申し訳ないですけど、後回しにしている部分があります。このようなサイクリングのときにまずは貸出でヘルメットつけたらこんな感じなんだとか知ってもらう、いろんなヘルメットがあるというのも見てもらうなど、そういう時間にもなればヘルメットを着用することへのハードルも少し下がるかなと思いますし、その貸出用のヘルメットにも、何か防犯の見守り中とか、地域活動の何々中みたいなステッカー貼ってあるとか、そういうのがあるとイベント中もそういう啓発にもつながるかなと思いました。以上です。

○加我座長 ありがとうございます。

様々な連携のアイデアをいただけたかと思います。何かお気づきの点等、事務局のほうでございますでしょうか。

○事務局（本池企画総務課長） いろいろとご意見ありがとうございます。

うたごえ広場の周知に力入れています。広報にも載せていたはずなのですが、もう一つ周知が弱かったのかなと思いますので、広報だけではなくていろんな手段を検討していきたいと思います。

また、プログラム、応募団体数とかにもよるんですけど、どのように「キタキタ☆スマイル」導入できるかということも検討していきたいなと思います。

あと、サイクリングイベントについてヘルメットの貸出しも検討させていただきたいと思います。これを通じて、今ヘルメットを持っていない方も貸出しがあることで参加していただけるのかなと思いますので、その辺りは前向きに考えていきたいと思います。ありがとうございます。

○加我座長 ありがとうございます。では続いて、今野構成員。

○今野構成員 少し戻りますが、「パパがつながる父親向け子育て支援」、非常に大切な交流の支援かなと思っています。私は今、父親としてこどもが、5歳と4歳になるこどもを育てているんですけども、恐らく当時1歳、2歳の頃、一番大変だった子育てのとき、こういう支援の活動があったら行っていないと思います。なぜかというとやはり仕事が忙しくて行けない。でも、今であれば行きたいと思います。その差というのは、やはり母親、私の妻に全て子育てを任せてきたから、紅谷構成員もおっしゃっていたように、恐らくここに積極的に来ている家庭の方は、特に家庭的な子育てに問題はないんですけども、やはり本当に支援が必要な家庭というものもあると思っています。

そういう家庭、私もそのひとつなのかも分からないんですけども、やはり多くの家庭で母親に子育ての多くを任せている。母親はやはりこどもとある意味孤独で大変、でも、なかなか交流会に行けない、横のつながりを持ってないというところで、この父親がこの支援、子育てに参画することというのは非常に家庭を温かくしますし、

守れますし、母親の支援にもつながっているということが、今では分かっていますけれども、当時は全く分かっていませんでした。この交流会支援があったとしても、恐らく分かっていない父親に来てほしいというふうに、こういうのありますよと言っても、なかなか来てもらえないと思います。なので、中村構成員もおっしゃっていたような父の日でイベントをして、気軽に来てもらえるようなイベントをするなど、積極的に父親に関わってもらえるような取組、具体的には何かと言われると難しいんですけども、非常に大事なことだと思います。父親に対して積極的に、特に生まれた初期からアプローチをしていく取組というものを、こういうイベントがあるということはもちろん大切なので、そこに来てもらえる取組をしていただけたらと思っています。

続いて、「はッピー・すまいる」フォトフェスタについてですけれども、昔の写真大募集とあるのですが、私もこの地域で生まれて、この長曽根という、この近くの地域なんですけれども、長曽根には昔、長曽根遺跡というものがある、当時こどもだったので全然分かっていなかったんですけども、平地があって、穴が掘られて遺跡が出てきたところ、そこが秘密基地だったんです。そういう写真は、今この昔の写真と聞いて、何かそういう写真が見れたら思い出せて、懐かしくなるような気がして、非常に期待をしています。

このアナログ写真というところも、私、農業をふだんしていて直売もしていますけれども、近くでアナログ写真、すごい大きな何十万、何百万円もしそうなカメラを持った方々がトマトを買いに来てくださいます。すごく横のつながりが多く、この北区の地域、去年であればコウノトリが飛んできたり、ニュースにもなっていましたけれども、非常にバードウォッチングされている方、写真を撮っている方も多くいます。この方々の横のつながりってすごい広くて、いろんな地域に皆さん行っていて、あそこには何がいるよというつながりがあります。こういう取組で、例えばこういうフォトフェスタをすれば、もっとこのつながりが増えてきて、世代も超えて写真の好きな方々、写真だけではなくて「たのしい」が好きな方々がつながっていくのかなと思いますこれに期待をしています。

以上です。

○加我座長 ありがとうございます。

フォトコンテスト等について事務局のほうで何かございますでしょうか。

○事務局（本池企画総務課長） すみません、ありがとうございます。

今、おっしゃっていただいた写真好きな方々、その窓口といえますか、ぜひ紹介していただければ声かけに行きますので、よろしくお願いいたします。

○加我座長 ありがとうございます。

続いて、はい、紅谷構成員、お願いします。

○紅谷構成員 すみません。フォトコンテストの話が出たので、私もこれは言っておこうと思って、昔の写真大募集はすごくいいアイデアだなと思いました。

特に北区は地域の、新しい町もありつつ古い歴史もあって、大変交通が便利で人口も増えていって変化の激しいまちなので、やはり昔の写真というのは大変貴重だと思います。昔から住んでいる人にとってもそうですし、新しく入ってきた人や、ここで生まれ育ったお子さんなんかも昔どうだったんだろうと、歩いていても歴史を感じるところとか、まちの道路が変わっていったという経緯でこうなったんだろうとか結構面白いです。大学生がまち歩きをしていても、まちのつくりとかで面白いポイントがたくさん残っています。ですので、集められた写真

は、ぜひ将来的にデジタル化していったって、ARで見えるようにするとか、小学生や中学生が、そのふるさとを学ぶ、ふるさとを学ぶというのは、その学校の学習で使うとか、場合によっては大学生の論文とか、まち歩きとかでも使えるかもしれないので、大変貴重な財産になると思います。ぜひ本当にすばらしく広げたいと思うような取組ですので、ぜひ続けていただきたいと思います。これ1つです。

2つ目が、区民活動支援コーナー、うたごえ広場というものです。こちら一覧のところに北区交流祭りというものがあると書かれていまして、いろんな自治体がよく市民文化祭とか、市民の様々な文化活動をされているようなところの発表会をまとめてやって、そこでダンススクールであるとか、学校の部活であるとか、そういうところの演奏会も入れて、大々的にやっているような気がします。うたごえ広場だけだと、その歌だけという感じなので、文化系サークルやダンススクールとかも入れてやるということと、やはり行政のできる大きな支援というサポートとして、やはり表彰活動というのがありますので、それから区長賞とか、部門ごとに出していったって活動されている方に関しては、すばらしい活動しているんですよというふうに、きちんと評価してあげるというのも大事なんじゃないかなと思いました。

以上です。

○加我座長 ありがとうございます。

事務局のほうでご意見等ございますでしょうか。

○事務局（本池企画総務課長） ありがとうございます。

集めた写真は全てデジタル化して、今後にも活用していきたいと考えております。

また、このうたごえ広場はセットで交流会とやっていまして、うたごえ広場は一般の区民の方に来ていただいて、交流会は新金岡市民センターの区民活動支援コーナーに登録している団体、活動している団体の発表の場となっています。うたごえ広場に來たお客さんを、そのまま交流会の発表にもつなげていきたいなということで連動してやっているんですけど、なかなか間に休憩を入れたりすると、人がさっと減ってしまったりとか、そういう課題もあるので、今後、PRに力を入れていきたいなと思っております。

○加我座長 本日いただいたアイデア等を参考にさせていただいて、充実させていただければと思います。伊藤構成員どうぞ。

○伊藤構成員 ごめんなさい、時間のない中、3点ほど、1つが今ちょうど出ている、このうたごえ広場のところです。フォトコンテストとか、本当に様々なコラボレーションの取組がなされていてすばらしいなと思ったんですけど、先ほどもコメント出しましたが、うたごえという、本当に歌とか、音楽だけのイメージというか、印象を持つので文化系サークルなどもウエルカムだよ、みたいなことが分かるような広報があれば。あと、例えば、川柳とか、先ほどフォトコンテストがありましたけど、この写真に何かいい川柳をみたいなのではないですけども、そういういろんな文化系の取組や趣味があると思うので、幅広くいろんな人が参加しやすくなっていくといいなと思ったのが1つ目です。

2つ目が、健康増進の『わ』のところで、先ほどパパがつながるところでも、やはり働き盛りで難しいとか、最初に野田構成員も、自分の健診の時期を乳がん検診とか何歳忘れていたとかあるということで、働き盛りの世代の人って、結構こどもの健康や予防注射とかは、すごくスケジュールを組むんだけど、自分の健康がどうして

も後回しになりがちだったりします。そういった働き盛りの30代、40代、50代のちょっと仕事が忙しい世帯、世帯ではなく、世代、忙しい層へのアプローチをどうしていくのか、それこそ目につくところにいっぱい広報したほうがいいのかというところは、大事なポイントかなと聞いていて思いました。

3つ目なんですけれども、この健康増進のための取組が、サイクリングだったり、いわゆる体の健康のところ为中心なんですけど、美BODY講座とか、多分健康って体だけではなくて、心の健康とか、メンタルヘルスもすごく大事だと思います。そういった取組も今後、そういう相談窓口もありますよとか、何か疲れてないですかという、その子育てだけではなくて、仕事だったり、人生だったり、多分いろんなことに疲れるかもしれないので、ちょっと心の健康の取組もあるといいなと思いました。

すみません、質問ではなく感想ばかりで、以上です。

○加我座長 ありがとうございます。

○事務局（藤井北保健センター所長） せっかくがん検診のお話をさせていただいたので、ぜひお聞きいただきたいのですが、がん検診、今年度は無料で受けていただけるんです。それも我々もなかなか啓発不足で御存じないという方も多くて、おっしゃるように働き盛りの人は、職場で検診を受けていただける方はいいいとしても、そういう検診体制がないという方に対して、もっとアプローチができるように考えていかないといけないなと思っております。

あと、メンタルヘルスのお話もいただきました。確かにやっぱり職場の中でも不調の波があるという職員もいたりするので、身近な問題かなと思います。ご意見、また反映させていきたいなと思っています。

あとイベントに来られる方は、そのイベントをキャッチして参加できる方じゃないかというご意見もありました。微力ながらですけども、保健センターで乳幼児健診というのをやっています。それ以前に妊娠届のときに、全員にお会いして面談させていただいており、4か月までのお子さんには必ずご家庭に訪問するというシステムがあります。4か月健診、1歳半、3歳とお子さんの健診がありまして、そのときに多くの方はやはりお母様が連れていらっしゃる人が多いんですけど、その来ていただく方を通じて情報発信ができればなと思っておりますし、最近はお父様で単独で連れていらっしゃる方も増えてきていますので、そういったところで情報を提供していければなと思っています。

○加我座長 ありがとうございます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日は皆さんにご意見等いただきたいと思ひてござひます。中田構成員、よろしくお願ひします。

○中田構成員 子育てのところなんですけど、広報でいろいろされていると思うんですけど、それで十分に届いている状況ではないというところで、いろいろされていると思うので恐縮なんですけど、1個考えたのが、インスタグラムの広告機能とか使われているかもしれないんですけど、子育て世代であればInstagram使われる方も多いと思うので、その広告を強化していいのではないかなと思いました。情報収集にInstagramを使われたりとかもあると思うので、子育て情報発信専用のアカウントをつくってもいいんじゃないかなと思いました。

あと自転車について、個人的に大学でサイクリング部に所属していて関心があるというのがあるんですけど、堺市に先ほど紹介のあった自転車博物館とか、大和川サイクリングロードとか、ツアー・オブ・ジャパンとか、私

も実際に行ったことがあってすごく魅力を感じていて、それが広まったらいいなと思っています。自転車、小学校のときに自転車の絵を描くコンクールがあり、自転車には小さいときから関心はあったんですけど、そういった自転車が有名な堺というのがある一方で、自転車の交通ルールがあまりよろしくないみたいなのも感じています。特に地方から進学してきた友人からは、堺は自転車の乗り方が悪いという話もよく耳にしています。そうなんだと思うのですが、実際、道路を逆走している自転車はよく見るんですけど、私の妹もしていたときがあって、あかんでって注意したら、そうなん知らなかったって言っていました。知らない人もいるんだなということで、知ってもらえるように学校での講習もあると思うんですけど、サイクリングのイベントに来てもらった人に、自転車の交通ルールとかを重点的にしっかり伝えるというのも、実際に感じて知ってもらえると思うので有効かなと思いました。このサイクリングイベントも、北区の魅力を自転車でいろいろ回って感じられるのはすごくいいと思うので、いいなと思っています。以上です。

○加我座長 ありがとうございます。

大学の中で職員、教員の中でも、堺での自転車マナーの悪さというのは評判になっているのでよく怒られています。私、堺出身なので、何を言っているんですかとよく言うんですが、こんな怖いところないでとよく言われますので、みんなでマナーを、私自身も含めて改善していければと思います。

では、水野構成員、よろしくお願いします。

○水野構成員 防犯意識のところで、現在、北堺警察署や防犯協議会等と連携して、ひたくり防止カバーの配布等のこと出ているんですが、私も防犯支部長をやっていますけれども、防犯カバーをいただいたのはいつか忘れるくらい昔です。1つもされていないと思います。こういう行事は、それこそ昔はコーナンさんのところで、また、イオンさんとか、そういうことをやっておりましたが、最近は本当にやっていません。年に4、5回の会議に行ったときに、カバー4つか、5つほど持って帰ってどうぞと、そういう状態です。だから、もっともっと防犯協議会と北堺警察署に活動していただくようにお願いしたいと思います。

その次に、防犯ステッカーですけれども、前には詐欺防止のステッカーをいただいて貼っているんですけども、恐らく効き目はあると思います。防犯のステッカーも早く制作して配布していただきたいと思います。

その次に、住民自らが防犯の取組に参画することで、自分たちの地域は自分たちで守る、当たり前のことです。特に、自治会の会員さんにはこういうことを口酸っぱくなるほど言っていますが、非自治会の会員さんには通じないです。これは防犯だけではなく防災にも関わってくると思います。だから、非自治会員さんにどういうふうにしてアピールするかが問題点になってくると思います。

それから防犯パトロールに関しましては、車両等で回るということなんですが、北区のほうでは、数年前までは青色の青パトというのを走らせていましたが、乗る方が高齢化して、今はありません。見かけないということではありません。青色のパトロールをやっているところはひょっとしたら15校区のうち1つか、ひょっとしたら2つぐらいあるかもしれませんが、本当に運転する方高齢化になりまして、一時はブレーキとアクセルを間違ふ恐れがあるということで、防止の機械もつけたんですけども、それでも高齢者が多いのでなくなりまして、北区ではほとんど今のところ青色のパトロールはございません。私も校区のほうで青少年指導委員、また、防犯委員、先ほど言いましたように委員長をやっておりまして、これまで、前年度まで合同の会議が終わりましたら、みん

なで、自転車で校区のところ、4校区を3人から4人に分かれて巡回するということをやっておりました。今年度から、4月からやめました。なぜかといいますと自転車に対する制度が厳しくなりました。2列で走っていたら捕まります。防犯灯がなければまた捕まります。一旦停止をしないと捕まります。せっかく巡回をしていても捕まってしまったら何もならないので、自転車での巡回はやめました。ただし、地域の盆踊り、または秋祭り等に関しましては徒歩で、歩いて、また、年末には徒歩で火の用心を兼ねて防犯のパトロールを行うようにしております。

それから子育てに関しまして福祉委員やっておりますので、例えば北区では地域のつながりハート事業というのがございまして、子育てサロンでは未就学児までを預かるということなんですけれども、ところが、私どもの中百舌鳥町の自治会館の上には子育てみんなの広場というところがありまして、大体、月平均300組ぐらいの親御さんが来られます。ですから、1日20組ぐらいです。これも減ったほうでございます。これも予約をしてという形でございます。コロナの前は、それこそ年間1万人ぐらいは来ておったんですけれども、予約してもそういう状況でございます。そして未就学児といいましても、今、ご存じのように3歳から上はほとんど保育園並びに幼稚園のほうへみんな入れてしまいますので、来られているのは本当に乳児、2歳ぐらいまでです。来ているこどもがそういうことでございますので、残念ながらもう小学校へ上るという子と対面するのがなかなか難しいというのが、うちのほうでの子育てサークルの状況でございます。

以上でございます。

○加我座長 ありがとうございます。

日頃いろいろご尽力いただいていて、現場での声も含めてということでお話しいただきました。

何か事務局のほうでございますか。どうぞ。

○事務局（曽根自治推進課長） ご意見ありがとうございます。

水野構成員がおっしゃっていただいたように、自治会未加入の方に広く、防犯について啓発していくということが大切かと思っておりますので、その方法についてどういったことができるかということを考えながら進めてまいりたいと思います。ありがとうございました。

○加我座長 ありがとうございます。

本日は、「安全・安心」、「子育て」、「魅力」と「健康増進」ということで、令和8年度の新規・改善事業の取組を中心にご報告いただいて、皆さんのほうから応援と、アイデア等をいただけたと思います。

私のほうで本日の議論の簡単なまとめということになってございますが、自身の生活を考えると、健康増進も耳の痛い話ですし、がん検診や健康診断に行かないかんと思いつつ、自転車でヘルメットというのも耳の痛い話でございます。ちょっとしたことで変わっていかうかと思いますが、今日、私自身この会議に出て、ああそうかと考えさせられるところ多数ございました。おそらく、そのことに課題を持っている方々は区役所にとのことですが、それを気づかずにということで、今日の説明資料、今年度の取組、今までもそうですけども、随所に〇〇モールが出てくるかと思えます。お買物のついでにであったり、出かけたついでに、そういうことかということを教えてもらえる機会が重要かと思えます。お困りになられている方々を区役所で受け止めるということと、じばしん、それからイオン堺北花田などの民間事業者の方々と連携して進めていただいて、また、その

成果等、また、今後の課題等を引き続きこの会議でも議論したいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、この後の事務連絡等、事務局に進行をお返しします。

○事務局（鳴海企画係長） 構成員の皆様、本日はありがとうございました。

本日いただきましたご意見を参考に、取組内容について再度見直しを行い、ビジョンに掲げる将来像「『たのしい』でつながる北区」の実現に向けた取組を進めてまいります。

次回の会議は、ビジョンに基づく取組の進捗状況などについてご意見をいただきたいと思います。令和8年9月下旬から10月上旬頃に開催を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

（午前 11時30分 閉会）